

県内高等学校との高大連携による 『保育者養成導入講座』の開発と実施

小田原女子短期大学

1 高等学校定時制課程を対象とした 『保育者養成講座』実施について

(1) 社会的背景

本事業の実施の場である県立高校定時制課程は近年、教育システムに適応しづらかった生徒たちの居場所、やり直しの場所になっている。彼らに高等学校在学中に進学や就職へのインセンティブを与え、将来に備えるきっかけを提供することが必要となっている。また、定時制課程のみならず、現代の若者の傾向として、社会参加、就労意欲、職業選択についての課題があり、それを克服する一助として、高大連携によるキャリア教育が着目されている。

一方、わが国では新待機児童ゼロ作戦を受けて保育所の増設が予定されるとともに、有資格者による家庭的保育の充実も期待されている。実際に現場に出て働く意欲がある者を有資格者として養成することが求められているといえよう。

加えて、保育者への適性は学力だけでははかれないため、進路選択のミスマッチが起きやすいことも課題のひとつである。

(2) 事業目的と実施者

高大一貫した学習・進路支援を行い、保育に関心の高い生徒の学習意欲、就労意欲を高めることを目的として「保育者養成導入講座」を実施した。このキャリア教育を通じて就労意欲が高い保育士を養成することにより、県内の保育士不足解消の一助ともなろう。

実施者の小田原女子短期大学保育学科（以下、

本学）は、食物栄養学科と保育学科を設置する定員 400 名の小規模短期大学である。本学では近年、地域貢献や社会貢献を念頭に置き、教員が地域に出て自らの専門性を生かした活動展開を行っている。

その一環として、県立小田原高等学校定時制課程と協働で実学講座を開発し、平成 20 年度にスタートした。さらに、平成 22 年度からは、神奈川県協働事業として、更にカリキュラム構成や内容の充実を図った。

なお、本講座は、全日制課程の生徒、社会人に対する保育の仕事への就労意欲を喚起するためにも有用であるように計画した。

(3) 実施内容

まず、高校では保育に興味がある生徒を募集し、時間割内に保育者養成導入講座を組みこみ、本学計画の保育者養成導入講座の内容にそって、本学教員が授業を行い、高校生へのキャリア支援を行う。担当教員の専門は保育内容、音楽、美術、体育、心理、福祉と幅広い。これら教員が、保育所・施設・幼稚園で展開されている保育の理論と実践について実技や演習を交え、一連の流れを作りながら 10 回連続で授業をした。授業は 1 回 2 時間である。授業の場は、講義は小田原高校で行い、体験的授業や見学、実技は本学施設を利用した。

講座全体のねらいは以下の 4 点である。

- ①仕事としての保育の楽しさや充実感について知る。
- ②乳幼児のあそび体験をして、乳幼児とのかか

わりの楽しさを想像する。

③保育の場における乳幼児の生活を知り、保育の仕事の意義を知る。

④保育士の資格取得とキャリア形成の意味について理解する。

シラバスは下記のように組み立てた。

回	授 業 内 容★は本学にて実施
1	◎仕事としての保育 保育の職場の多様性、保育士のキャリア形成ややりがい学ぶ。
2	◎子どもと生活 保育所や幼稚園の中における子どもの生活の流れについて知る。
3	◎造形あそび★ 子どものような心で素直に感じながら、造形あそびを体験する。
4	◎音楽あそび★ 幼児の音楽あそびを体験してみる。ピアノ室見学をする。
5	◎運動あそび★ リズム体操や幼児体操、幼児の身体表現について理解を深める。
6	◎子どもの発達とあそび 子どもの発達段階によるあそびの変化について知り、遊びを体験する。
7	◎絵本や物語と子どもの世界★ 子どもの絵本を通じて、子どもの感じ方を知る。絵本の読み聞かせを体験する。図書館を見学する。
8	◎児童虐待防止と保育士の仕事 児童虐待について学び、その予防や早期発見、対応、施設における保育士の仕事を知る。
9	◎学校見学と保育セミナー参加★ 保育士になるための学びの場を見学し、進学への意欲を喚起する。
10	◎仕事としての保育★ 保育士になるための学びのプロセスについて解説し、資格取得への動機づけをする。資格取得や進学準備について説明する

講義は双方向性がある内容とし、授業方法に工夫を凝らした。小田原高校担当教員とは実施計画、シラバス確認、日程調整、受講生について情報交換などの打ち合わせを事前に3回実施した。

県内他校に対して以下のように働きかけを行った。



授業風景／造形遊び（本学工作室にて）



授業風景／本学図書館見学と絵本の実演



授業風景／講義（小田原高校にて）

①平成22年度

- ・神奈川県立大井高等学校訪問時に本事業について説明（平成22年6月）。
- ・神奈川県立平塚商業高等学校定時制課程を訪

間し、実施呼びかけ（平成 23 年 3 月）。いずれも直ちに導入するというにはならなかった。

②平成 23 年度

- ・ 県立秦野総合高校、県立平塚商業高校、県立小田原高校の定時制課程担当者との連絡会を実施（平成 23 年 11 月 10 日）。

県立秦野総合高校、県立平塚商業高校の 2 校に県立小田原高校へ来校願ひ、『保育者養成導入講座』の開設の可能性についての連絡会を自由討議の形式で実施した。

結論的には各高校の時間割等の基本的仕組みが異なり、魅力的ではあるが即導入とはならないとのことであった。

(4) テキストの作成

事業 2 年目に「保育者養成導入講座」テキストを編集・作成した。各高等学校に於ける就労や勉



テキストの表紙・裏表紙

学への動機付けを期待して、事業終了後、各高校（定時制課程等）に送付・配布した。

本書は、小田原高校定時制課程で実施した「保育者養成導入講座（前頁表の 1～10）」の内容をテキスト化したものである。また、資料編として、保育教材や近年求められている子育て支援事業などについても掲載した。構成は、イラストや図表

をふんだんに使い、デザイン性を高くして、高校生にも馴染みやすいようにした。

事業の普及のために、テキストの PDF データはダウンロードできるように、本学ホームページにアップした。

2 大学発・政策提案制度について

(1) 本事業の事後評価

①受講生からの評価（当事者評価）

小田原高校では、毎回受講生へのアンケートを実施している。その結果として以下のことがわかった。

- ・ 実技系科目では楽しさを感じている。
- ・ 講義系科目は、楽しいという評価は少ないが、キャリア教育としての効果は高い。
- ・ 講師に対する評価は全般に高い。

②小田原高校担当教員からの評価（外部評価）

毎年度、小田原高校担当教員からの評価を受けている。以下、報告書より抜粋した。

「生徒の職業意識が高まった。実際に保育士になりたいと感じている生徒にとっては、とても参考になる。就労意欲だけでなくキャリア実現に向けた就学意欲の向上、出席率の向上、中退者の激減など、学校の教育活動全体の効果を上げている」

③本学教員自己評価（内部評価）

本学教員による内部評価を以下抜粋する。

- ・ 授業への興味を喚起できた。
- ・ 連続講座であるので、他の教員の講座と関連して、保育への興味関心につながっていることがうかがえた。
- ・ 授業を受けるモチベーションを全体的に上げる方法については、課題を残している。
- ・ 他の高校への普及がうまくいかなかった。（上記への改善策が必要である）

④全体を振り返って

保育に関心の高い生徒の学習意欲を高めるとと

もに、高大一貫した学習・進路支援を行うことを目的として実施した本講座であるが、実際に保育士を進路として選んだ生徒は各年度1名程度であった。しかし、継続的に出席する生徒が他の授業より多いこと、保育者養成導入講座を経て、介護など近接の対人援助職に就いた生徒がいることなどから、保育者養成導入講座を通じて、勉学への意欲や就労への意識が高まったことがわかる。

神奈川県協働事業「大学発・政策提案制度」としての実施は終えたが、小田原高校と本学は独自に高大連携を続けている。協働事業を経て今後は、県立高校とのパイプが太くなったことを活用し、小田原高校だけではなく、県内高等学校との高大連携を強めていきたいと考えている。

(2) 県協働事業としての評価と提言

①神奈川県と協働した意義

「大学発・政策提案制度」として実施したことには、以下の意義があった。

・予算支援

県より資金支援を得て、テキスト作成ができ、これをPDF化することにより、今後も長いスパンで本事業を普及していくことができる。また、保育者養成導入講座のための教材購入ができ、授業内容が豊かに展開できた。報告書を作成できたことも今後につなげる意味があった。

・連携促進

県との協働事業ということで、小田原高校以外の高等学校とも連絡会を開くことができた。

・意識化促進

県との協働事業に採択されたことにより、本学で本事業にかかわっている7名の教員は、学内外で活動の意義を認められたと感じ、インセンティブが高まった。また、小田原高校内でも県との協働事業となったことで本学との連携の意義に確信が持てたということである。

②神奈川県との協働事業「大学発・政策提案制度」としての課題

・事務手続き

本学では事務担当を配置して実施したが、特に教員人件費の書式が多岐にわたり、詳細な記録を求められ、書類の作成に多大な時間を必要とした。

・組織化支援

小田原高校以外の高等学校と連絡会を開くことができたが、組織同士のつながりを作るには至らず、担当者レベルの打ち合わせにとどまった。神奈川県との協働事業者である以上、本学と近隣高等学校との組織間の関係づくりに向けた、県からのもう一歩踏み込んだ支援が求められる。

③提言：今後の展開に向けて

高大連携事業について、複数の高等学校や大学に呼びかけ、連絡会等を立ち上げるための神奈川県からの支援が必要である。

具体的には以下が求められる。

・時間割の地域共通化

たとえば、一定エリアの高等学校の一部時間割の共通化を試みて、大学に複数の高等学校の生徒が「保育者養成導入講座」を一緒に受講できる曜日と時間を確保する。

・単位認定制度

「保育者養成導入講座」など高大連携科目の単位を高等学校で認めることができるようにする。このことが高校生のインセンティブを高めると考えられる。

・地域密着型キャリア支援高大連携システム

県全域より少し小さな、交流可能なエリアで、複数の高等学校と大学が相互に知恵を出し合うための仕掛けが必要である。

上記を政策として実施し、高校生のキャリア支援を目的とした、地域密着型の高大連携のシステムづくりをすることが求められる。

(小田原女子短期大学保育学科長・吉田眞理)